

地域戦略として福祉と観光の

まちづくり推進を!

質問

4月24日、公民館で開催された観光シンポジウムの報告誌の中に、地元での自己評価として、「町としての方向性が見えてこない。湯沢町の場合は一体感というのが見られない」という指摘がある。

観光を主たる生業とする湯沢町にあつては、「高齢者や障害者が楽しめるまち」、「住みたいまちは行きたい魅力的な良いまち」という認識に基づき、町民や障害者団体、まちづくり団体そして観光関



高橋 博幸

連団体と協働しながら地域戦略として「福祉観光都市」という方向性を目指すべきではないか。

わが町にあつてはややもすると、福祉と観光を別レベルで考えてきた傾向がある。私はこれらを不可分の関係として一つのまちづくりの方向性に持っていくべきと考えている。

平成10年9月策定の「湯沢町観光振興計画」の中に、湯沢町の観光振興に向けての考え方として5点挙げられている。その内の(4)「観光地としてのバリアフリーの推進」では高齢化社会が急速に進む中、バリアのないまちづくりを進めていかなければならない。また、障害者が積極的に社会参加する時代になっており、こうした人達を受け入れるために、ハード・ソフ

ト両面の整備を行い、誰にも優しい観光地づくりを進める必要があると記載されており、(5)「住民に魅力的な町が観光客にとつても魅力的な町」では、観光客のための観光地づくりではなく、「住民のために魅力的なまちづくりを推進し、その魅力的なまちを地域以外の人に体験してもらうことが、これからの新しい観光地づくりの考え方である。」と記載されている。

しかし残念ながらわが町では、これらを踏まえた具体的施策の方向性、具体的施策の実践が行われてきたのか?安易に短絡的なその場限りの施策に頼りすぎてきたのではないかと考えられる。

長期的な方向性を考えた中で、まちづくりを実践してこなかったことが現在の私たちの町の実態と思つ。

「福祉と観光」というものを不可分の関係として位置づけて、福祉と観光のまちづくりを推進し

町長答弁

私も当然ここに住んでいる皆さん方が町外に出て行つてしまふというよ

く皆さん方にも優しいまちづくりに努力をしてまいりたいと考えている。現在、私のところに、金のかかる企画書、金のかからない企画書いろいろ意見をいただいている。町にはアーバンリゾートシティーサーテーター画もあります。私としては「二流の都会づくりを目指すより、一流の田舎づくりを目指す方がいい」と考えている。



4月24日に開催された湯沢町観光シンポジウム

一

般

質

問